

# 教宣 せぶん

## ニチドウが消えた

昨日、「ミレアホールディングス」の社名変更について对外発表されました。7月1日を目処に「東京海上ホールディングス」に変更するというものです。「上」と「ホ」の間に日動の文字はありません。変更理由は、「当社を取り巻く事業環境が大きく変貌した」「グローバル化の進展がますます加速している」「国内外で高い認知度と評価されている名称を使用」などと説明され、「環境の変化に伴いやむをえず」という論調になっています。

しかし、「ミレア」誕生以来、この経営者がすすめてきた社内施策をみると、外勤社員制度、集金、月掛など、日動社の特徴といわれた制度や仕組みをすべて廃止してきました。また、合併時には半数近くいた日動社出身の役員も瞬く間にいなくなりました。商品施策においても、日動社で扱いの多かった商品・特約をすべてなくし、東海社の商品に一本化してきました。でっばった部分の一扫がほぼ完了されたのと同時に示されたこの社名変更は、したたかな経営者の既定路線としか思えません。施策の遂行に伴って、「ミレア」という隠れ蓑にしまっておいた企業合併のホンネ、経営者のコダワリが一気に噴き出した、馬脚をあらわしたというのが本当のところではないでしょうか。合併に際し、イコールパートナーとして、両社の社長が満面の笑顔で握手していた姿がいまでも脳裏に焼きついています。両社の社長がイメージしていた新企業の将来像は、まったく違ったものだったと言えます。

強いものが弱いものを当たり前のようのみ込んでいくというシナリオのなかで、私たちの社員制度の廃止も、組合分裂も、不当労働行為事件も起こってきました。しかし、私たちはその都度「間違っている」「おかしい」と声を上げ、経営者の露骨な攻撃を法に訴え、世論を巻き込んで、このシナリオにたたかいを挑んできました。経営者のシナリオでは、もっともらしい理由を並び立てることで、簡単に社名から「ニチドウ」を外すことはできますが、私たちから「ニチドウガイキン」を奪うことは決してシナリオ通りにはすすめさせません。

私たちはいま株主総会にむけてたたかいを盛り上げていこうとしています。一枚でも多くのピラを配り、一枚でも多くのハガキを書いてもらい、この経営者がすすめる露骨な「シナリオ」を多くの人に訴えましょう。一人でも多くの組合員が株主総会でこの経営者がすすめる「シナリオ」をただしまししょう。法に訴え、世論を巻き込み、力いっぱいたたかい切ることで、私たちにむけられた強者が描く、理不尽な「シナリオ」を粉碎しましょう。